地域とともに 学校づくり

地域学校協働本部

大口町の小・中学校には、児童、生徒のみなさんが気持ちよく学校で過ごせるよういろいろなお手伝いをしてくださるボランティアの方々がいるのを知っていますか？

校舎内外の掃除や草木の手入れ、図書館の仕事、授業や行事のお手伝いなど、さまざまな場で活動しています。このような活動のまとめ役をしているのが「地域学校協働本部」です。

「学校支援」と「生きがいづくり」

地域学校協働本部は平成20年、文部科学省からの事業を受託したことにより始まりました。目的は、学校の教育活動を地域の人々が手伝い、補いながら、参加した方々の生きがいづくりにつなげようというもの。学校の手助けをするボランティア活動に終始するのではなく「まちづくり活動」として、大口町の掲げている住民主体の「参画と参加のまちづくり」の流れの中に位置づけ、学校からの要請ではなく、ボランティアで企画・運営し、自立した組織として活動していこうというものです。

町内で活動する16の組織（ＰＴＡや区長会、商工会など）により「生涯学習のまちづくり実行委員会」が設立され、町の外郭団体として活動が始まりました。同年7月に第1回の地域住民に向けた説明会が開かれ、42名がボランティア登録しました。その後開かれた活動検討会では、まず最初に「自主自立運営」という活動理念を共有し、具体的にどういった活動をしていくかを話し合いました。

新生大口中学校から

平成20年4月、「大口中学校」と「大口北部中学校」が統合し、「新生大口中学校」が誕生したばかり。当時の田中将弘校長も「ぜひ地域の住民の力を学校教育活動に取り入れてほしい」と積極的でした。

2学期に、初めての清掃活動がおこなわれ、生徒の掃除の時間に地域の大人と活動するということで、「地域ふれあい清掃」と命名されました。

生徒たちは、始めは見ず知らずの大人が学校に入ってきて戸惑っていましたが、活動を続けていくうちに、いつしか当たり前の光景となり、「おじさーん」と気軽に呼ぶように。「今まで気付かなかったところに目がいくようになりました」「ボランティアの方が来るときはがんばらなくっちゃと思ってやっています」など、うれしい感想が聞かれました。また、ボランティアからも、「すれ違った中学生にあいさつをしてもらった」「いつもありがとうございます、とお礼をいわれた」など、確かなふれあいの時間になっていると思える感想や、現場の先生たちからも、「地域の方たちにどんどん学校に入ってもらい、子どもたちの様子を見てほしい」という意見が聞かれ、徐々に双方の信頼関係が生まれていきました。

続いて、新しい支援事業として「図書館支援」を3学期から開始することになりました。これは、図書の整理や修繕、カバー貼り、図書館の飾り付けなどをおこなうものです。これには30代から40代の女性が中心になって参加してくれました。活動は地域と学校の連携の窓口としての役割も果たし、地域が学校教育活動に参加する体制が整っていきました。

その後、平成23年からは小学校支援も始まりました。

地域学校協働本部（旧学校支援地域本部）

学校支援事業を取りまとめる事務局は、創立当初は生涯学習課内に設置されましたが、平成23年より大口中学校の地域開放棟に移転。令和4年には、名称を「地域学校協働本部」と改め充実を図っています。この事務局では、学校とボランティアとの間の調整や活動の取りまとめ、地域開放棟の活用（講座開設）などをおこなっています。

13年間事務局にて事務局長やコーディネーターを務められた丹羽幹比古さんにお話を伺いました。

ー活動が始まって15年目になりますが、学校支援は今ではすっかり当たり前の光景になっていますね。ここまでくるまでの運営のご苦労や工夫などをお聞かせください。

一番苦労したのは、メンバー集めです。「いつでも、どこでも、できるときに、できることを」をモットーに、無理なく続けられる仕組づくりを工夫しました。1か月の計画表を配ってお知らせし、ボランティアさんたちが自分の予定を立てて参加しやすくする工夫をしました。また、ボランティアさんたちが集まることのできるボランティアルームを各学校の入口近くの入りやすい場所に作ってもらい、終わった後はその部屋に集まって反省会をできるようにしました。いつしか茶話会のようになり、その「ダベリング」を楽しみにきてくれる会員さんが多いんですよ。話しやすい雰囲気の中で、いろいろアイデアも出て、有意義な反省会になっていました。コロナ禍以前は年に2回ほど懇親会をおこない、ボランティアさん、学校の先生、事務局が集まりとても盛り上がりました。ボランティアさんたちは、会話を楽しみにしているんです。子どもたちとの会話もさることながら、ボランティアさんたち同士の会話も「生きがいづくり」になっていると思います。

ーメンバー集めはどのようにおこなっているのですか？

チラシを配ったりポスターを貼ったり広報に載せてもらったりしていますが、一番集まるのは口コミです！ 地域の顔の広い方や、取りまとめ役をやられている方が誘ってくれるのが一番効果的でありがたいです。

ーいろいろな活動をされていますが、特徴的な活動はありますか？

単発的なものとして調理実習の補助かなぁ。「ベテラン主婦の知恵袋」は特別で、世代間のふれあいの時間になっています。あと、ミシン実習の補助も、ベテランの方

丹羽幹比古さん

の技術がとても助けになっています。その他、理科室の実験器具の整備や耳鼻科健診の器具の洗浄・設置、運動会補助、プール掃除手伝いなどユニークなものもありました。

―研修会などもあると聞きますが…

はい、図書館支援のためのカバー貼りや展示物の飾り付けの研修をしたり、空港の掃除員さんを呼んで掃除のやり方を学んだり、地域の日本舞踊の先生を招いて「和のフィットネス」踊りの研修もおこないました。スキルアップも楽しみの一つです。

―やっていてよかったと思った思い出はありますか？

ボランティアさんから「毎週くるのが楽しみ」「あんたに会うのが楽しみ」といってもらったことかなぁ。ボランティアさんは、20代から最高齢で80代の方がいました。自分にとっても人生の大先輩です。最高齢の方が免許を返納し、毎週自転車で通っておられました。大先輩からそんな言葉をかけていただき、この活動をやっていてよかったなと思いました。

取材にて

「この活動が続く秘訣は、ボランティアする方、される方、双方にとってWin-Win（ウィンウィン）であることだよ」と語っておられた丹羽幹比古さん。すべてのボランティア活動にいえることかもしれません。

学校支援ボランティアは、始めは我が子や孫が通っているのがきっかけできてくれた方も、身内が卒業後も続けてくれるようになってきたそうです。それも、活動が楽しく、人間関係が良好であるからに違いありません。体を動かし、いろいろな人とふれあい、情報交換をし、そして感謝もされる…ボランティアといいながら、「やってあげる」「やってもらう」という関係ではなく、「自分たちが子どもを見守る」「自分たちの学校を支援する」という主体性を持っての活動だからこそ、楽しさややりがいも生まれるのでしょう。それが、「大口の子は大口で育てる」という大口町の生涯学習理念にもつながっていると感じました。我が子を子育て中に、「同じことでも、人からやれといわれてやることは楽しくないが、自分から進んでやることは楽しい」と教わったような気がしますが、人生どんな場面でもあてはまることだと改めて実感しました。

募集 地域学校協働本部 学校支援ボランティア

	内容	曜日	開始時間
大口中学校	図書	隔週火	午後1時55分
	清掃	金	午後1時25分
	特別支援学級	時間割による	
北小学校	環境	木	午前9時
	図書	水	午前10時15分
西小学校	環境	木	午後1時20分
	図書	隔週木	午前11時
南小学校	環境	水	午前8時30分
	図書	隔週金	午前11時

※その他授業、健診、行事等の支援を学校からの依頼に応じておこなっています。※毎月の活動案内を前月上旬にLINE または郵送でお知らせしています。

問合せ先　生涯学習のまちづくり実行委員会　地域学校協働本部（大口中学校　地域開放棟内）日・月休み　午前８時から午後４時45分　☎090-4407-2589

▲地域学校協働本部は、大口中学校（東側）地域開放棟内にあります

取材・文／大口町 NPO 登録団体 ZOOM